

## 令和4年5月 定例教育委員会会議録

開催日	令和4年5月25日(水)
開催場所	半田市役所 会議室402
出席委員	教育長 鈴川慶光 委員 新美大 委員 榊原肇 委員 桂優子 委員 正村日登美
説明のため出席した職員	教育部長 岩橋平武 学校教育課長 森田知幸 主任指導主事 鈴木康弘 指導主事 高下隆史 給食センター所長 前田成久 生涯学習課長 青木美希 スポーツ課長 加藤計志 スポーツ課主幹 長坂壮浩 図書館長 山下由美 博物館長 関正樹 南吉記念館長 遠山光嗣
事務局	学校教育課総務担当副主幹 渡辺 富之
協議事項	(1) 令和4年度半田市一般会計補正予算について (2) 教育委員会に係る計画等の見直しについて
報告事項	(1) 寄附、後援願等について (2) 児童生徒(園児)の交通事故・問題行動等について (3) 令和3年度重点取組事項に対する取組及び評価について (4) 令和4年度地区公民館(主事)の異動について (5) はんだシティマラソン2022の開催について (6) 愛知駅伝半田市代表選手の募集について (7) 「はんだとしょかん」について (8) 半田市図書館協議会委員の任命について (9) 「小栗家住宅」の重要文化財(建造物)指定について (10) 企画展「知多半島の化石」について (11) 第34回新美南吉童話賞作品募集について (12) 令和4年度「なんきち出前授業」の実施について (13) 令和4年度「南吉さんの蛍まつり」について
各課事務連絡	(1) 新美南吉記念館だより217号発行について (2) 音楽のある町半田について

〈 開会 10時 〉

1. 前会の会議録の承認	<p>(事務局)</p> <p>4月定例会の会議録について概要説明 → 承認</p>
2. 教育長報告	<p>(教育長)</p> <p>・令和4年度も4月後半からゴールデンウィークが明け、大きなトラブル等もなく概ね順調な学校運営が送られているが、一部の教員に休職などもある。各学校が限られた人材でうまく回している。</p> <p>・コロナ禍に関しては、一部学級閉鎖等もあり終息したとは言えないが、感染が拡大しないよう各校取り組んでいる。また一方で熱中症予防の観点からマスクの使用制限の緩和など発表される見込みで、通知内容を確認したうえで適切に指導していく。</p> <p>・4月23日に半田市少年少女合唱団総会、5月1日にはジュニアブラスバンドの定期演奏会に出席した。こうした合唱、演奏に加え各種スポーツなどの部活動について、今後中学校の土日の活動の廃止に向けた検討をする中、廃止した後の対応を心配する声を聞くことがあるが、スポーツ推進審議会や文教厚生委員会、PTAなど様々な方々と協議し考えていく。文科省は令和5年度から3年間で廃止するよう各自治体で協議するよう求められていることもあり、生徒の土日の活動が保障できるよう、既存の地域で活動している団体との交渉や大学生との連携など検証し、今後のスケジュールなど示していきたい。</p> <p>・5月12、13日と全国都市教育長協議会・研究大会が山口県で開催され出席した。4月21日にはオンラインではあったが東海北陸都市教育長協議会定例総会が開催され、こうした広域の会議も再開し始めている。会議の議題においても部活のテーマは多く提案されており。総体的にはどの自治体も対応に苦慮しており、他の自治体の様子を伺っている印象であった。</p> <p>・5月16日愛知県地域学校協働本部推進協議会がオンラインで行われ、議題の1つにコミュニティスクールが挙げられ、現在半田市は全小中学校に学校運営協議会が組織され、各校で工夫をこらして地域が参画した活動を展開することをコミュニティスクールと位置付けている。</p> <p>しかし、国が求めている「学校運営協議会」は学校経営に積極的に参加し意見提案などができる協議体であり、地域活動は「地域学校協働本部」を中心に地域住民や団体などの参画を経た活動を展開し、この「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」が連携することで「地域学校協働活動」を展開しようとするもの。</p> <p>他の自治体の状況は、国モデルのとおり2つの協議体を有して取り組んでいる自治体もあるが、その多くは「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」が同一の組織で取り組んでいる。</p> <p>半田市の取組みについては、市内の全小中学校に「学校運営協議会」が組織され地域活動を実践している強みを活かしつつ、今後は学校運営に関与していくことを半田中学校の好事例などを参考にして、国モデルに沿った内容となるよう整理していく。</p> <p>・5月18日半田山車祭り保存会総会に参加した。今年10月には山鉾屋台の全国大会が亀崎で開催される。令和5年度には第9回はんだ山車まつりが開催される。そうした大きなプロジェクトの実現に向け動き出した。</p> <p>・5月20日の制服検討委員会で総選挙の結果を経て制服が決定し、来年度に向けた順調に準備が進んでいる。</p>

<p>3. 議題 協議事項 1) 令和4年度 半田市一般会計 補正予算について</p>	<p>(学校教育課長) 6月14日から開催される6月定例議会への議案として、教育委員会から補正予算案を上程するもの。乙川中学校改築事業は、現在、今年度の3学期からの共用開始を目指し、建替工事を実施している乙川中学校の建設資材の高騰に対応するため増額補正を行うもの。 小学校情報機器整備事業と中学校情報機器整備事業は、昨年、企業からいただいた寄附金について、一旦、教育基金に積んでいた寄附金を活用するとともに、県補助金を活用し、オンライン授業環境の高度化を図るもの。具体的には、各教室へ、リモートで授業に参加する場合でも教室全体の音が聞けるよう、移動式のスピーカーマイクを設置するもの。 続いて歳入として小学校費補助金の公立学校情報機器整備費補助金と、中学校費補助金の公立学校情報機器整備費補助金は、既に実施済みのGIGAスクール運営支援センターの整備と先ほど歳出でご説明したオンライン授業環境の高度化を図るものに対し、県補助金が交付されることになったため、充当するもの。 小学校情報機器整備事業充当と中学校情報機器整備事業充当は、オンライン授業環境の高度化を図るものに対し、教育基金からの繰入金を歳入するもの。</p> <p>(博物館長) 財産管理費のうち、基金積立金については、令和4年1月1日から4月30日までに入金されたふるさと納税で、活用希望先である「文化財の保存継承に関する事業」に将来充当するため、「文化財保存継承基金積立金」に積立し保管するもの。 歳入については、先ほど歳出で説明いたしました基金積立金の原資を「文化財保存継承基金寄附金」として収入するもの。</p> <p>(南吉記念館長) 財産管理費のうち、基金積立金については、令和4年1月1日から4月30日までに入金された寄附金及びふるさと納税の合計であり、活用希望先である「新美南吉の文学を顕彰する事業」に将来充当するため、新美南吉文学顕彰基金に積立し保管するもの。 歳入については、先ほど歳出で説明いたしました基金積立金の原資を「新美南吉文学顕彰基金寄附金」として収入するものです。</p> <p>(新美委員) 乙川中学校改築事業に伴う資材高騰による補正との説明があったが、このような資材単価の交渉は毎月ないし定期的に行われるものか。今後も高騰による増額補正の可能性はあるのか。</p> <p>(学校教育課長) 資材高騰に伴う請負業者との交渉は、高騰している伸び率の推移で今後の動向などを検証し、交渉回数は1回としている。また、本工事は令和5年1月の供用開始を必須とし、変更契約には議会承認が必要となることから複数回の変更契約は想定し</p>
---	--

<p>2) 教育委員会に係る計画等の見直しについて</p>	<p>ていない。</p> <p>(新美委員) 本工事に限らず多くの建設工事では、資材が調達できない事象が散見されているが、予定している令和5年1月からの供用開始は実現できるか。</p> <p>(学校教育課長) 資材の早期発注など対策しており、工事は遅延せず完了する見込みである。</p> <p>(榊原委員) 南吉記念館、博物館のふるさと納税について、新たに開発された返礼品とは何か。</p> <p>(新美南吉記念館長) ①記念館に設置している南吉の遺影に献花を代行するもの ②ガイドボランティアとともに2時間乗り放題のタクシーにてゆかりの地を巡るもの これらを開発するとともに、一般的な寄附として金融機関での払い込みができるよう寄附採納書とチラシを兼ねた用紙を作成し設置している。</p> <p>(博物館長) 博物館では新たな返礼品の準備は進めてないが、文化財保護などを目的に寄附をいただいているものもあるので、これらを原資に文化財カードを作成し寄附の意向に沿った運用を行っている。</p> <p>(教育長) 原案のとおりと進めることとよろしいか。</p> <p>(委員) 異議なし</p> <p>(学校教育課長) 今回の見直しとして「半田市教育振興基本計画」の見直しを主に図っていきたい。教育振興基本計画は、教育基本法に定める教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、地域の実情に応じた基本的な計画を策定されることとなっている。しかしながら、現在の半田市の計画の関係性は、学校教育に特化した計画である「学校教育 HANDA プラン」が半田市教育振興基本計画として位置づけられている。教育部では各課等がそれぞれの事業内容に応じた個別計画は策定しており、また、本年度よりスポーツ課が新たに教育部に仲間入りしたことを受け、既存の計画を活かしたうえで見直しを図ったもの。</p> <p>具体的には「半田市教育振興基本計画」は、教育部の柱となる「学校教育 HANDA プラン」「生涯学習推進計画」「スポーツ振興計画」「子ども読書活動計画」「文化芸術推進計画」の5つの計画を統括するものとして位置づけ、教育基本法に定める趣旨にも沿った形で策定する。また、学校教育 HANDA プランについては改定を行う。</p>
-------------------------------	---

(榊原委員)

今回の見直しは、具体的に何が変わるのか確認したい。また、SDG s についての取組に関しては今回の計画でどこまで反映させるのか。

(学校教育課長)

SDG s については、第 7 次半田市総合計画の策定に際し、基本施策ごとに関連項目を明示するとともに、各課が策定する実行計画に反映させることで持続可能な開発目標の実現に向け取り組んでいる。また、今回の教育部の計画の見直しの主とするところは、個別具体的な計画を策定することではなく、機構改革もあった中で既存の計画を整理することに重きを置いている。

(榊原委員)

策定することが目的とならないよう、地域の実情に合った半田市ならではの計画策定をお願いしたい。

(桂委員)

今回改定を予定している学校教育 HANDA プランの現在の期間はいつからいつまでか。

(学校教育課長)

平成 23 年から令和 2 年の 10 年計画であったが、新市長の公約との兼ね合いや総合計画との連動制などを検証する必要性から 2 年延長し、他の計画とも期間を合わす形で今年度改定する運びとなり、学校教育 HANDA プランは大幅な改定を行う。

(新美委員)

半田市教育振興基本計画に入っていない公民館等長寿命化計画等の位置づけはどのようなものか。

(学校教育課長)

教育振興基本計画に入っている 5 つの計画は、教育基本に記されている教育の振興に必要な要素としているもののうち、半田市として「学校教育」「生涯学習」「スポーツ」「読書活動」「文化芸術」の 5 つの計画を柱とし位置付けたもの。

(榊原委員)

今後、学校運営協議会が学校運営に携わっていくこととなるのであれば、地域の方々が計画の内容などに触れられる機会があったほうが良いと思うが如何か。

(学校教育課長)

昨年度の定例教育委員会において、校正段階の学校教育 HANDA プランを提示した機会にも地域の声を取り入れるよう指示をいただいているため、今年度の取組みのなかで実践していきたい。

(教育長)

今回の計画の見直しで半田市教育大綱の見直しも伴ってくる。委員の皆様には引き続きご意見等いただきながら進めていきたい。

	<p>(教育長) 原案のとおりと進めることとよろしいか。</p> <p>(委員) 異議なし</p>
<p>報告事項 1) 寄附、後援 願等</p>	<p>(学校教育課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24 団体より寄附。</li> <li>(内訳：マグネットスクリーン、現金)</li> <li>・ 4 件の共催事業を許可。</li> <li>・ 24 件の後援名義を許可。</li> </ul> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>2) 児童生徒 (園児)の交通 事故・問題行動 等</p>	<p>(指導主事)</p> <p>令和4年4月20日～5月24日の交通事故・問題行動等について。</p> <p>交通事故：6件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月21日(木)1件</li> <li>4月28日(木)1件</li> <li>5月19日(木)3件</li> <li>5月24日(火)1件</li> </ul> <p>問題行動(被害)等：3件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月22日(金)1件</li> <li>4月28日(木)1件</li> <li>5月15日(日)1件</li> </ul> <p>交通事故以外の事故：1件</p> <p>5月17日(火)</p> <p>学校等被害：なし</p> <p>不審者情報：5件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月19日(火)1件</li> <li>4月21日(木)1件</li> <li>4月30日(土)1件</li> <li>5月11日(水)1件</li> <li>5月18日(水)1件</li> </ul> <p>(正村委員)</p> <p>交通事故で中学生の自転車事故の報告があったが、交通安全教室等は実施しているか。</p> <p>(指導主事)</p> <p>中学校は全生徒を対象に交通安全教室は実施している。特に新1年生の中には初めて自転車登校となる生徒もいることから、年度当初に実施しているが、小学校のような実技を伴う教室は実施していない。</p>

<p>3) 令和3年度 重点取組事項に 対する取組及び 評価について</p>	<p>(主任指導主事)</p> <p>昨年度末に、令和3年度のめざす子ども像と重点取組事項について、幼稚園、小中学校がそれぞれ自己評価を行った。</p> <p>「ふるさと半田、地域」に関する項目で幼稚園では、地域の人材や環境などを活用したことで、たくさんの人の支えで園生活が送れていることや自分たちは見守られて成長していることを感じる事ができた。</p> <p>また、南吉記念館の見学や南吉作品の読み聞かせなど発達段階に応じた取組が行われているが、今後も、題材の選定や活動の工夫が課題となった。</p> <p>小中学校では、感染症対策や学校行事の実施などコロナ禍での学校運営について、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）から意見・助言を受け、熟議を通じた取組を進めることができた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止により、地域行事が中止されたり地域へ出かけての活動が制限されたりするなど影響が大きかったが、地域の方を講師として招いたりICT機器を活用したりするなど、郷土学習の新しい形を模索することができた。</p> <p>学校行事等が中止・縮小される中で、自校の特色やその特色を生かすための方策について確認することができ、それらを生かした特色ある学校づくりを進めることができた。</p> <p>「命など、知徳体の徳」にあたる項目で幼稚園では、誕生会への参加を通して、自分が愛されていることを実感できたことや、友達と互いのよさを認め合ったり教師に褒められたりする中で、自己肯定感を高められるよう取り組んでいる。</p> <p>また、小動物の世話や栽培活動を通して、命の大切さ、誕生・成長の喜びなどを感じさせる活動ができています。</p> <p>小中学校では、命を守る現場で働く方々の生の声を聞く機会を得て、児童生徒は命の大切さについて深く考えることができた。今後も、関係機関との連携の強化とともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど校内の教育資源の活用に努めていきたい。</p> <p>また、小学校・中学校ともに、道徳教育推進教師を中心に、道徳の授業実践・研究が進んでいる。</p> <p>教育相談体制の充実については、各校で工夫して校内での情報共有を進め、「Q-Uテスト」を活用することで、集団の特性や個人の状況を的確にとらえ、学級経営や個への指導・支援に役立てることができた。</p> <p>「キャリア教育など、知徳体の知」にあたる項目で幼稚園では、遊びの中での気付きや疑問を友達と共有できるようにしたことで、友達と考えたり工夫したりして遊びを広げていく姿をよく見かけるようになった。</p> <p>また、友達と共通のイメージをもち役になりきって表現できるように環境を整えたことで、充実感や達成感を味わい、将来への夢や憧れの気持ちを膨らませることができた。</p> <p>円滑な小学校とのつながりについては、校庭めぐりなど様々な機会をとらえて小学校へ行ったり就学に向けて期待をもてるように話題にしたりすることで、小学校入学に期待をもてるように努めた。</p> <p>小中学校では、3年度も幼稚園、保育園、小学校、中学校のキャリア教育の取組を報告書にまとめ、他校・園の取組を参考にできるようにするとともに、「キャリアパスポー</p>
--	---

ト」の活用が浸透しつつある状況になった。

また、各校で「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりに努めることができた。一人1台のタブレット端末の活用も進み、対話活動の充実に努めている。

特別支援学級や通常学級の特別な支援を要する児童生徒への支援を組織的・計画的に行うことができ、個に応じた指導を進めることができた。

I C Tの利活用については、一人1台のタブレット端末を含め推進が進み、様々な場面で利活用されている。学校間、教員間に苦手意識等の差があり、さらなる研修を通して利活用の推進を図っていく必要がある。

「体、生活習慣など、知徳体の体」にあたる項目で幼稚園では、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを保護者に伝え続けたことで、親子で考える機会になり、生活リズムが整い心身ともに健康な子が増えてきた。

また、子どもたちの興味に合わせて戸外遊びや運動遊び、リズム遊びを行ったことで、体を動かすことの楽しさを感じることができました。

「食」の喜びに関しては、栽培・収穫・調理活動を通して、収穫の喜びや食べ物に対する興味関心が高まり、自ら進んで食べようとする気持ちが育っている。

小中学校では、校内で共通理解を図った上で、日常的に基本的な生活習慣の指導を行っており、成果を上げている。

また、市図書館など学校外の諸団体との連携のもと、充実が図られてきている。今後、コロナ禍での感染症対策と実施方法の工夫が必要である。

体力の向上については、中学校部活動では、新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような実施が叶いませんでしたが、半田市ガイドラインに沿った部活動運営を行う中で、生徒の意欲的な参加と技量向上を図っている。

小学校でも、業間運動について、教員もともに取り組むなど工夫して取り組んでいる学校が多く、今後もコロナ禍での感染症対策と運動に親しむ取組の工夫が必要である。

(桂委員)

全体的には高い評価がなされ、うれしく思っているが、評価項目のうち「キャリア教育の推進」と「主体的・対話的で深い学び」を保障する授業改革」の2項目が低い評価となっているが、どのような分析をしているか。

(主任指導主事)

この2つの項目に共通して言えることは、人との対話や関わりの有無が大きく左右するところ。コロナ禍で ICT の活用など様々な工夫をしながら各校取り組んではいるが、画面越しでは判断しきれない子どもの表情や声など、直接的な関わりが叶わないことによる影響を受け低い評価をしているものと分析する。

(桂委員)

コロナ禍は終息したとは言えないが、各学校でやれることも随分増えてきているので、今後の取組に期待したい。

	<p>(榊原委員) 重点取組事項に対する取組及び評価について、学校別のものはないか。今後学校訪問する際に教育委員としてピンポイントでアドバイス等できるのではないか。</p> <p>(主任指導主事) 各学校の個別のものを提示していない理由の一つとして、各学校の評価基準で実施しているところがあるため。</p> <p>(新美委員) この評価は各学校の全教員で行っているものか。または、管理職のみで行っているものか。各学校の評価結果を公表するのであれば全教員の意見が反映した評価結果とすべきではないか。</p> <p>(主任指導主事) 各学校によって対応はそれぞれとなっている。教頭が学校全体を俯瞰的に見たうえで作成し、教育委員会へ提出するにあたり各学校内で共有しているものと認識している。</p> <p>(榊原委員) 客観的な評価を取り入れるのであれば、学校運営協議会委員に評価してもらう選択もあるのではないか。</p> <p>(主任指導主事) 今回提示した評価のほかに、各学校では別の評価制度で「自己評価」と「関係者評価」として、既に関係者による評価は行っている。</p> <p>(新美委員) 恐らく各学校でやっていると思われる「保護者アンケート」の内容は叱咤激励を含んだ様々な意見が寄せられると思うので、評価の材料としたらどうか。</p> <p>(主任指導主事) 保護者アンケートは各学校実施しており、その結果は教育委員会への報告し、各学校の運営の参考にしている。</p>
<p>4) 令和4年度 地区公民館（主事）の異動について</p>	<p>(生涯学習課長) 現上池公民館主事のうち1名が、自己都合により4月末をもって退任したため後任として、5月1日付で丸山勲氏を選任し委嘱しましたので報告するもの。丸山氏は、以前から区の仕事やコミュニティで活躍し、平成15～17年においては同公民館主事を経験している。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>

<p>5) はんだシティマラソン 2022 の開催について</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>本来であれば、この定例教育委員会において、内容を説明のうえ、承認いただく運びとなるが、この事業の実行委員会では昨年度から令和 4 年度の大会について協議を進めており、昨年度中に内容が確定していたため、事後報告となりました。誠に申し訳ありません。</p> <p>はんだシティマラソンは「はんだスポーツの日」である 11 月の第一日曜日に開催していますが、昨年一昨年は新型コロナの影響を受け 2 年連続で中止となり、今年は 11 月 6 日（日）に開催する予定。</p> <p>また、今年は何としても開催したいという思いから、感染状況を見ながら検討を重ねてきたが、今後の感染状況の予測が困難なことから、従来開催方式から規模を縮小してリレーマラソン方式に変更するもの。</p> <p>要項に記載のとおり 7 つの部門に分け、時間をずらしてスタート。これまでは県外からの参加者も含め 3,000 人から 4,000 人規模で開催していたが、今回は、感染防止の観点から参加人数を 500 人程度と大きく抑え、コースも半田運動公園内の周回コースとするもの。</p> <p>その他では「シリアスソロ」という、一人で参加でき、ハーフマラソンに近い距離を走る部門も設定し、申込者が定員を超える場合は抽選にて参加者を決定いたします。</p> <p>参加料は記載のとおりで、小中学生のみの参加となる「ジュニア」の部門は、参加料は無料とする。</p> <p>今後、市報や HP など参加者や協賛を募り、本事業を進めるが、新型コロナの感染状況が悪化した場合などは、改めて開催の可否を判断していく。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>6) 愛知駅伝半田市代表選手の募集について</p>	<p>(スポーツ課長)</p> <p>愛知駅伝は 2005 年に開催された愛知万博を記念し、2006 年から毎年 12 月の上旬に万博会場の跡地である「モリコロパーク」で開催しており、昨年一昨年は「はんだシティマラソン」と同様に新型コロナの影響を受け 2 年連続で中止となっている。</p> <p>大会は、モリコロパーク内の全 9 区間のコースで、小学生から一般までの選手達で県内の市町村対抗戦で開催され、今年度は開催時期を令和 5 年 1 月 14 日（土）とし、従来と同じ方式で開催する方向で準備が進められている。</p> <p>半田市も毎年参加しており、今年も大会に向け、選手を募集するもので今後、市報や HP で選手募集していく。なお、代表選手の選考は、半田運動公園で 6 月から始まる選考練習会を経て選出していく。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>7) 「としょかんまつり」について</p>	<p>(図書館長)</p> <p>7 月 9 日(土)、本館 2 階第 1 会議室・閲覧室にて「としょかんまつり」を開催する。たくさんの人に図書館ボランティアの活動を知っていただくとともに、図書館に親しみを</p>

	<p>持っていただくことを目的に開催するもの。今年度は、午前・午後の2部制とし、定員を決めて事前申込制とする。午前の部は3歳以下のお子さんとその家族が対象で、読み聞かせやパネルシアターの上演などで午後の部は年齢等の制限は設けず、読み聞かせやストーリーテリングなどのほか、工作や録音体験も楽しめるもの。6月10日から17日まで申し込みを受け付け、応募者多数の場合は抽選とする。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>8) 半田市図書館協議会委員の任命について</p>	<p>(図書館長)</p> <p>半田市図書館協議会は、図書館法に基づき設置され、図書館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、図書館奉仕について、館長に意見を述べる機関である。</p> <p>委員については、半田市図書館条例第9条第3項の規定により、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、半田市教育委員会が任命することとされており、任期は2年としている。</p> <p>令和4年5月31日で任期満了となるため、改めて6月1日から2年の任期で10名の方をお願いするもの。うち8名の方が新任で、それぞれの所属団体から推薦をいただき、委員として任命するもの。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>9) 「小栗家住宅」の重要文化財(建造物)指定について</p>	<p>(博物館長)</p> <p>半田蔵のまちエリアにある国の登録有形文化財の小栗家住宅について、令和4年5月20日に開催された国の文化審議会において、重要文化財(建造物)に指定するよう、文部科学大臣に答申が出された。</p> <p>本来であれば、答申にあわせて報告する内容であるが、国による情報提供の時期や報道規制、本委員会の開催日程の都合などから事後報告となった。</p> <p>今後は、官報での告示、7月～8月頃をもって重要文化財に指定される予定。</p> <p>小栗家住宅は半田運河地域に所在し、江戸時代から「萬三(まんさん)商店」の屋号で醸造業や肥料商などを営んできた小栗三郎兵衛(さぶろうべえ)家が、幕末から明治にかけて整備した屋敷群で建築当初から大きな改変がなく、質の高い状態がまとまった形で残されていることが高く評価され、平成16年に主屋をはじめ8棟が、半田市第1号となる国の登録有形文化財となった。</p> <p>その後、平成28年度に名古屋工業大学へ文化財調査業務を委託し、平成30年3月に「小栗家住宅総合調査報告書」を発行し、昨年12月と今年の3月、計5日間にわたり、文化庁調査官による現地調査が実施され、これを受けて、半田市から意見具申書を文化庁へ提出、国の文化審議会で諮問された後、5月20日に答申が出される運びとなったもの。</p> <p>指定基準は「意匠的に優秀なもの」ということで、小栗家住宅の広大な敷地には、主屋をはじめ意匠的に優れた質の高い建物が多数残されており、半田の繁栄を物語る近代和風の豪邸として評価されている。</p>

	<p>なお、今回の指定により、半田市内の国指定文化財は 12 件となり、うち重要文化財の建造物は、旧中埜家住宅と小栗家住宅の 2 件となる。</p> <p>(榊原委員) 国の登録有形文化財から重要文化財となることで規制等受けることになるか。</p> <p>(博物館長) 重要文化財となることで、建造物の補修等の際に使う部材や工法など多くの規制が掛かることになるが、これらの費用の一部は国庫補助が充てられることになる。</p>
<p>10) 企画展「知多半島の化石」について</p>	<p>(博物館長)</p> <p>「知多半島の化石」は、6月25日 土曜日から9月4日 日曜日までの期間で開催する。</p> <p>知多半島南部に広く分布する『師崎層群』という地層からは、今から約 1,800 万年前に生息していたウニやヒトデ、エビやカニ、そして深海性の魚類など様々な種類の化石がたくさん見つかり、これらの化石は、他の地域では見られない珍しいものが多く、さらに保存状態が極めて良いことから、世界的に貴重な資料として知られている。昨年 10 月には 40 年ぶりに本格的な発掘調査が行われ、テレビや新聞でも大きく取り上げられ、本展では、師崎層群から見つかった深海生物の化石群を中心に、知多半島の化石や地質について紹介する。</p> <p>期間中の 7 月 2 日の土曜日には、東海化石研究会顧問の水野吉昭(よしあき)氏を講師にお招きし、記念講演会『世界第一級の深海化石発掘調査プロジェクト～師崎層群と東海化石研究会～』を開催し、本講演会では、東海化石研究会による昭和 58 年当時の発掘の様子や、昨年の発掘調査の成果について紹介する。</p> <p>また、7 月 30 日の土曜日と、31 日の日曜日の 2 日間は、『コハクを磨いて昆虫を観察しよう！』を実施し、このイベントでは、サンドペーパーを使って本物のコハクを磨き、中に入っている昆虫は観察して持ち帰ることができる。講師に東海化石研究会のメンバーを招き、コハクの磨き方から顕微鏡を使った観察ポイントまで丁寧に解説。</p> <p>さらに、企画展開催期間中、『新種の古生物コンテスト!!』を開催し、このイベントは、来館者に新種のオリジナル古生物（大昔の生きもの）のイラストを自由に描いてもらい、名前や特徴などを考えて応募してもらうもの。応募していただいた作品は、できる限り館内に掲示し、幼児の部、小学生の部、中学生～大人の部の 3 部門を設け、企画展終了後に、各部門で最優秀賞 1 名、優秀賞 2 名を選出する予定。</p> <p>(榊原委員)</p> <p>かなり大規模なイベントとなるので、化石に興味のある子どもたちが一人でも多く参加してもらえよう PR してもらいたい。</p>
<p>11) 第 34 回新美南吉童話賞作品募集について</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>応募期間は 6 月 1 日から 9 月 10 日まで。自由なテーマで書いていただく自由創作部門が、高校生以上の一般の部、中学生の部、小学校高学年の部、低学年の部に分かれ、また、好きな南吉童話をひとつ選び、それに通じるようなテーマで別の作品を作</p>

	<p>っていただく南吉オマージュ部門もあり、こちらは小学生から大人まで同じ土俵で競う部門としている。</p> <p>一昨年、コロナ禍による夏休みの短縮で課題として取り組む子どもが減ったために市内小中学生の応募が前年の 231 篇から 107 篇に半減したが昨年はだいぶ戻って 204 篇で、入賞者として板山小学校の 4 年生が佳作を獲得した。</p> <p>先日の校長会で PR をお願いさせていただき、今後、チラシを各校に配布して参りますので、ぜひ今年も市内の多くの子どもたちに童話を書くことにチャレンジしてもらいたいと考えている。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>12) 令和 4 年度「なんきち出前授業」の実施について</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>「ごんぎつね」を学習する 4 年生を対象に、当館の学芸員が学校を訪問し、南吉の人生や、「ごんぎつね」の舞台・書かれた背景などについてお話しするもの。また火縄銃やはりきり網など物語に出てくる昔の道具を持っていき、実際に見て触れていただきたく機会としている。コロナ前は毎年全校から呼んでいただいていたが、一昨年は 5 校、昨年は 8 校だったので、ぜひ全校にうかがえるよう、こちらも先日の校長会で利用を呼び掛けさせていただいた。</p> <p>(委員からの質問等なし)</p>
<p>13) 令和 4 年度「南吉さんの蛍まつり」について</p>	<p>(新美南吉記念館長)</p> <p>童話の森西側の谷地に数千匹の蛍を放して鑑賞していただく人気イベントで、観光課、観光協会と協力して行うもの。コロナ禍により 2 年連続で中止していたが、今年は 6 月 24 日（金）、25 日（土）の 2 晩で計 1,200 名、完全予約制で開催し、南吉童話の読み聞かせ、和紙の灯りアートと琴やフルートの演奏、クイズラリーを行う。</p> <p>南吉記念館もナイトミュージアムとして 18 時から 20 時 30 分まで、新美南吉記念館管理規則第 4 条第 2 項の規定により臨時開館し、半田市使用料条例第 6 条の規定に準じ、観覧料を無料とする。ただし雨天の場合は鑑賞会、イベント、臨時開館とも中止とする。</p> <p>(新美委員)</p> <p>数千匹の蛍は館内の敷地内に生息しているのか。</p> <p>(南吉記念館長)</p> <p>生息しているはまだわずかなので、当日は養殖した蛍 3,000 匹を放して鑑賞していただく。</p>

<p>各課からの事務 連絡</p>	<p>(南吉記念館長)</p> <p>「新美南吉記念館だより」第 217 号では、3月に行いました童話賞表彰式の様子や南吉の母校の東京外国語大学の学生が「ごんぎつね」をアラビア語に翻訳して絵本にしたことなどをご紹介している。</p> <p>4月から始まっております企画展「一枚の葉書」は「蟹工船」のオマージュか？、について、手刷りの資料で展示パネルの文章はほとんど入っている。5月1日に中日新聞県内版に大きく紹介されるとともに、先日は作品の舞台になった北海道で読売新聞の全道版で紹介され、南吉の教育観についても触れている。</p> <p>(生涯学習課長)</p> <p>音楽のある町半田について、これまでもチラシを作成しPRを行ってきましたが、今年度はチラシのサイズをA4サイズから見開きタイプに変更し、手に取りやすく鞆に収納しやすい大きさとした。7,000部作成し順次配布しPRしている。</p> <p>6月5日(日)吹奏楽の響き in 半田が開催される。年2回のうち1回目の講演で、半田市の観光大使である平野泰新さんが指揮者を体験するなどプログラムが予定されている。</p> <p>(主任指導主事)</p> <p>中学校の来年度導入の制服について、5月20日の「令和の時代の制服を考える委員会」にて最終決定した。今後は販売店等に示す仕様書を検証し6月1日に公開する。</p> <p>制服内のシャツについては各中学校で検討しており、白を基調としたカッターシャツまたはポロシャツの併用を認める運用で進む見込み。各学校はこれを機に靴下や靴などの校則も見直していることから、決定次第速やかに周知するよう指導している。</p> <p>制服の仕様書に盛り込む条件事項としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①伸縮性のあるもの</li> <li>②家庭で洗濯できるもの</li> <li>③撥水加工しているもの</li> </ul> <p>現在着用している学生服やセーラー服についても、来年度からの制服の選択肢の一つとして、引き続き着用することも認める方針としている。</p> <p>(正村委員)</p> <p>これまでの制服ではリボンなどで各校のちがいがあったが、新たな制服にはそのような違いはあるのか。</p> <p>(主任指導主事)</p> <p>制服の形は同じであるが、左胸の位置に学校によって異なるエンブレムを付ける予定である。現在各校の生徒にエンブレムのデザインを募集しており、数点に絞り込み最終的には、当該中学校区の児童生徒が投票し決定する。</p> <p>(新美委員)</p> <p>これまでの制服と新しい制服と購入時の価格帯の違いはあるか。</p>
-----------------------	---

	<p>(主任指導主事)</p> <p>価格帯としては、ほぼ同じ範囲で収まるものと見込んでいる。  加えて、経済性や多様性を考慮し、ボタン前を左右どちらにも変更できることやキョロットやパンツの形状も２種類用意する予定である。</p>
委員からの意見 提言	<p>(桂委員)</p> <p>新聞の記事にあった文科省の発表した内容で、</p> <p>①特別支援学級の児童生徒の交流学習の時間数を半数以下にする  ②採用 10 年以下の教員を特別支援学級等に複数年勤務させることを推奨する  これらの通知等に対する対応を教えてください。</p> <p>(主任指導主事)</p> <p>① 4 月末に通知は届いているが、その子に必要な教育カリキュラムとなっているかが重要であると考えており、教育委員会として統一的な運用を各学校に求めるものではない。ただし、通知内容を踏まえた検討はするよう各学校に指導はしていく。</p> <p>②重要なこととは認識しているが具体的な運用等は県などから届いていない状況。これまでも何もしてこなかった訳ではなく、学校内で特別支援学級へ配置することや教科担任とするなど対応はしてきた経緯はある。</p> <p>(桂委員)</p> <p>①通知内容が統一的な対応として捉えていないことを確認し安心できたので、その子に必要な教育カリキュラムを学校内全体で考えていく風土をこれからも培ってほしい。</p> <p>②通常教室に在籍する障害や特性等のグレーといわれる子どもたちの対応も含め、特別支援学級等での経験は重要な要素となっている。一方で若い先生の意欲だけに任せってしまうのは負担が大きく、先生が疲弊してしまえば子ども達へも影響しかねない。若い先生を支え、共に考える先輩教員がいるなどの環境づくりもお願いしたい。</p> <p>(教育長)</p> <p>①の文科省のねらいとして、特別支援学級に配置する教員の人材不足を何とかしたいとする施策の一つではないかと感じている。繰り返しになるが教育委員会では全市的に統一的な対応ではなく、その子に必要な教育カリキュラムにて取り組んでいく。</p> <p>②人材を育成することを完全に否定はしないが、特別支援学級を複数人の教師で受け持つことは、感受性が敏感な子どもたちの不安を増長することにもつながり兼ねないので、①と同様に校内の教職員等がチームとなって、その子に必要な教育を実践していく。</p>
次回開催等	<p>(事務局)</p> <p>6月定例教育委員会 日時：6月29日(水) 10時00分～  場所：半田市役所 会議室303</p> <p>7月定例教育委員会 日時：7月26日(火) 10時00分～  場所：半田市役所 庁議室(4階)</p> <p>総合教育会議 日時：9月28日(水) 10時00分～  場所：半田市役所 庁議室(4階)</p>

	(教育長) 5月定例教育委員会を終了する。
--	--------------------------

〈 閉会 12時00分 〉